

あぐり情報

営農生活課
森永 諭



〔水稲情報〕 稲刈り・乾燥までの管理

7月に入り、そろそろ稲も出穂期に入る頃となつてまいりました。今回は、これから稲刈り・乾燥までの管理についてご紹介したいと思います。



○昨年の7月は…
昨年は、梅雨が長く続き、6月下旬から7月上旬にかけて低温・曇天が続きました。その影響で出

穂も遅れ、草丈のみがダラダラと伸びていた印象でした。

○今年の夏の天候・気温

今年の夏は、高気圧が全国的に広がり、7月～9月の気温は、広範囲で平年並か平年よりやや高く、全国的に暑い夏になりそうです。特に関東は平年より気温がやや高くなる傾向と言われています。また、猛暑日が続くおそれがあると予測されています。高温が続くと、乳白米の発生が多くなります。

整粒	白未熟粒				
	乳白粒	心白粒	緩白粒	背白粒	基部未熟粒
白色不透明部分の大きさが一定以上のものが白未熟粒とされます					

乳白米の発生を防止するために出穂から14日間は灌水管理をしっかりと行いましょう。

その後、出穂25日後までは間断かんがいにし、徐々に田面を固め、収穫に備えましょう。排水不良田では、出穂25日後に田面が露出するよう、出穂20日後頃を目途に落水を行いましょう。なお、早期落水は品質低下を招く原因となります。ほ場毎に適切な水管理を行いましょ。

○出穂期の予想

管内で多く栽培されている「ふさこがね」、「コシヒカリ」の出穂期の予測は次の通りになります。

品種	植付時期	出穂期
ふさこがね	4月20日	7月11日
コシヒカリ	4月20日	7月19日
	5月1日	7月29日
	5月10日	8月2日

5月に植え付けをしたコシヒカリは穂肥の時期に入ります。生育に応じて適期に穂肥を実施しましょう。

○イネ害虫の防除

昨年はカメムシの発生が全国的に多く、吸汁の被害を受けた米が多く見受けられました。今年も引き続き注意し、発生が見られた場合は早期防除に努めましょう。大型カメムシ類の防除適期は、成虫飛来期の穂揃期と幼虫発生初期の出穂15日頃です。穂揃期頃に防除を実施したほ場においても、その後、出穂7日後から14日後頃の乳熟期に斑点米カメムシ類が多く見られた場合は、農薬の収穫前使用日数、使用回数に注意し、追加防除を行いましょ。

また、周辺より出穂の早い水田や、特に遅い水田では集中的に加害されやすいため、主食用米・飼料用米いずれも発生に感じた防除が必要です。斑点米カメムシ類の防除薬剤は次ページの表の通りです。

○適期収穫

収穫期の目安は、出穂期(全穂数の40～50%が出穂した日)から「ふさこがね」で37日前後、「コシヒカリ」で38日前後です。早刈りでは青未熟粒、刈り遅れでは胴割米等が発生し、品質・食味を低下させます。

○乾燥作業

高温による急速な乾燥や過乾燥等は胴割れ米を発生させ、品質・食味を低下させます。仕上げ水分は14.5～15.0%としましょ。また、乾燥終了直後の、粳の温度が高い状態で粳すりを行うと、肌ずれ米や胴割米を生じるので、十分に放冷し、温度を下げてから行いましょ。

※農薬使用上の注意

農薬を使用する際は容器などに記載されたラベルの内容に従って正しく使用しましょ。農薬系統の使用回数に注意し、ローテーション防除を心がけましょ。

収穫前使用日数	薬 剤 名
収穫7日前まで	エルサン粉剤3DL、エルサンバッサ粉剤20DL、トレボン粉剤DL、スタークル(アルバリン)顆粒水溶剤、スタークル(アルバリン)粉剤DL、ダントツ水溶剤、ダントツ粉剤DL
収穫14日前まで	MR.ジョーカーEW、キラップフロアブル、キラップ粉剤DL、トレボンMC、ベストガード粉剤DL
収穫21日前まで	スミチオン乳剤、スミチオン粉剤3DL、アクタラフロアブル



▲イネを吸汁する主なカメムシたち

千葉県内では、近年、県南から県中央部にかけて斑点米カメムシ類と異なり、茎葉を吸汁するイネクロカメムシの発生が拡大しています。加害されると葉先が黄変、捻転し、分けつが抑制されます。防除薬剤としてはエルサン・ス



▲イネクロカメムシの被害葉



▲イネクロカメムシ成虫

タークル・スミチオン・MRジョーカーがございます。株元に生息しているので薬剤がかりにくいので丁寧な散布を心がけましょ。